

平成 26 年 6 月 6 日
独立行政法人 国際協力機構

民間競争入札実施事業
(独) 国際協力機構の「海外移住資料館の運営等業務」の実施状況について
(平成 24 年度及び 25 年度)

I 事業の概要

1. 委託業務内容

海外移住資料館の管理・運営業務

- (1) 常設展示スペースにおける利用者向けサービス提供
- (2) 図書資料室（海外移住）における利用者向けサービス提供
- (3) 一般収蔵庫及び写真特殊収蔵庫の収蔵物品の保守業務
- (4) 学芸業務
- (5) ボランティア管理業務
- (6) 教育プログラム運営業務
- (7) 運営委員会、学術委員会関連業務
- (8) 特別展示、企画展示、公開講座、その他イベント等関連業務
- (9) 広報業務
- (10) 本件業務の運営全般に関連する業務

2. 業務委託期間

平成 24 年 6 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

3. 受託事業者

公益財団法人 海外日系人協会

4. 受託事業者決定の経緯

海外移住資料館の管理・運営業務の入札説明書（平成 23 年 12 月 22 日公告）に基づき入札参加者（1 者）から提出された技術提案書について審査した結果、入札参加資格を満たすこと、技術評価点のうち必須項目を満たしていることが確認できた。

平成 24 年 5 月 9 日に開札を行い、入札金額が予定価格の範囲内であったため、これをもって落札者を決定した。

II 確保されるべき質の達成状況、管理・運営業務の実施状況および評価（平成 24 年度及び 25 年度）

1. 事業の実施にあたり確保されるべき質の達成状況

(1) 評価指標（実施要項 1-6）

- ① 来館者数：一年度当たり 30,000 人以上、②教育プログラム参加人数：一年度当たり 1,894 人以上、③海外移住館ホームページアクセス件数：一年度当たり 113,182visits 以上、確保すること。

(2) 結果

平成 24 年度および 25 年度における各指標の実績は表 1 のとおりである。

① 来館者数

平成 24 年度は 36,491 人（目標達成率 121%）、平成 25 年度は 37,553 人（目標達成率 125%）と、2 年間ともに評価指標を上回る結果を得た。これは、受託事業者が、国内外との関連施設や移民送出県・市との連携を図り、例えば、全米日系人博物館における展示の相互開催を計画・実施するなど、魅力ある特別展示を開催したことや、神奈川県や横浜市、みなとみらい 21 等との連携を推進し、関連施設等との共同でのクイズラリーの計画および実施など、イベント等により誘客を図ったことなどが要因として考えられる。

② 教育プログラム参加人数

受託事業者が教育プログラム内容の充実、広報強化を図った結果、出張講座等が増加し、教育プログラム参加人数数は平成 24 年度が 4,994 人（目標達成率 264%）、平成 25 年度は 6,803 人（目標達成率 359%）と大幅に増加した。平成 24 年度、平成 25 年度ともに評価指標を大きく上回った。

③ 海外移住資料館ホームページアクセス件数

国内外の移住資料館、日系社会博物館等とのネットワーク化を進めるとともに、内容の充実、定期的更新を図った結果、平成 24 年度が 154,255visits（目標達成率 136%）、25 年度が 163,928visits（目標達成率 145%）と、ともに評価指標を上回った。

④ 質の達成状況

以上の結果から、資料館運営・管理業務にかかる質は確保されたと評価できる。

表 1：来館者数、教育プログラム参加人数、海外移住資料館ホームページアクセス件数

評価項目	平成 24 年度(2012 年度)			平成 25 年度(2013 年度)		
	評価指標	実績	達成度	評価指標	実績	達成度
来館者数(人)	30,000	36,491	121%	30,000	37,553	125%
教育プログラム受講者数(人)	1,894	4,994	264%	1,894	6,803	359%
ホームページアクセス数(visit 数)	113,182	154,255	136%	113,182	163,928	145%

2. 管理・運營業務の実施状況

本件業務の確保されるべきサービスの質を達成するために、年間業務計画に基づき業務が確実に実施されていることを報告書及び海外移住資料館での観察、調査等のモニタリングによって確認した。以下は、主な内容である。

(1) 情報照会者数

来館者ならびに電話やE-mailでの情報照会について随時対応した。情報照会対応件数は表2のとおりである。

表2：情報照会対応件数

評価項目	平成 19 年度 (2007 年)	平成 24 年度 (2012 年)	平成 25 年度 (2013 年)
照会件数	353	284	324
うち、主要照会者・数			
地方自治体	25	9	9
教育機関	59	27	24
マスコミ	75	56	42

※1：情報照会対応は、以下の各業務にて実施される。

- ・「学芸業務」：学術的な照会への対応（常設展示の解説、質問対応）
- ・「資料館案内業務」：問い合わせ等への対応
- ・「図書資料室（海外移住）業務」：情報照会対応

(2) 来館者、情報照会者、海外移住資料館だより読者アンケート 調査結果

「資料館案内業務」、「図書資料室（海外移住）業務」、「広報業務」において、それぞれ来館者、情報照会者、資料館だより読者を対象にアンケートを実施し、資料館管理・運營業務について評価を求めたところ表3および別添1～3のとおりの結果を得た。

表3：アンケート結果の概要

	平成 24 年度(2012 年度)		平成 25 年度(2013 年度)	
	満足度(※1)	サンプル数	満足度(※1)	サンプル数
常設展示(総合評価)	78.5%	335	86.6%	241
情報照会対応	100.0%	15	100.0%	16
海外移住資料館だより	77.6%	335	83.9%	241

※1：満足度は、5段階評価で「とても良い」「良い」の選択肢を回答した割合をもとに算出。

※2：平成19年度は集計実績なし。

平成24年度及び平成25年度ともに80%前後の回答者が対応に満足していることから、適切な対応が確保できたことを確認した。

(3) 企画展示、特別展示等イベント実施実績

① 企画展示

企画展示は、資料館の学術委員会を中心とする学術研究結果に基づく展示で、入札実施要項に定められた実施回数は、平成 24 年度から平成 26 年度までの契約期間中に 2 回である。

企画展示の開催は、学術研究の進捗・成果によりなされるところ、平成 24 年度、平成 25 年度ともに未開催であるが、学術委員会と適切な連携を行い、開催に向けて調整を行っている。

② 特別展示

特別展示は、資料館が取り扱う範囲の日本人の海外移住および海外日系社会に関する特定テーマに基づく内容を展示するものであり、入札実施要項で定められた実施回数は年間 3 回以上である（平成 24 年度については、「海外移住資料館開館 10 周年記念」として関連する展示を行い、これを合わせて年間 4 回以上実施）。平成 24 年度は 5 回（うち 1 回は海外移住資料館開館 10 周年関連展示）、平成 25 年度は 4 回実施し、機構が設定した回数を上回った。

また、平成 25 年 11 月 15 日（金）～12 月 28 日（土）開催の特別展示「日系人と混血 -Hapa とメスチッソ-」では全米日系人博物館との連携、平成 26 年 3 月 1 日（土）～5 月 11 日（日）開催の特別展示「雄飛-沖縄移民の歴史と世界のウチナーンチュ」（過去 2 年間では最高の入場者数 10,154 人を記録）では移民送出県である沖縄県との共催など、国内外の関連機関との積極的な連携を図り、関係を構築することができた。

平成 24 年度および平成 25 年度の開催実績詳細は別添 4 のとおりである。

③ 公開講座

公開講座は、学術委員あるいは外部の講師が、特定のテーマにより一般の来館者に向けた 2 時間程度の内容の講座を実施するものであり、入札実施要項で定められた実施回数は年間 3 回以上である。平成 24 年度は 4 回、平成 25 年度は 2 回実施した。平成 25 年度の実施回数は、機構が設定した回数を下回っているが、これは降雪のため公開講座が延期となり、後日、振替講座を改めて実施したことが要因である。

平成 24 年度および平成 25 年度の開催実績詳細は別添 4 のとおりである。

④ その他、イベント等

委託事業者の自主的努力として、資料館独自のイベント開催のほか JICA 横浜や地域で行われるイベントへ参加し、海外移住についての知識普及および資料館の広報に貢献したことが挙げられる。平成 24 年度および平成 25 年度は、資料館独自のイベント開催や、神奈川県、横浜市が実施するイベントへの参加を積極的に行った。

平成 24 年度および平成 25 年度の開催実績詳細は別添 4 のとおりである。

(4) 移住関連資料等の収集数

「図書資料室（海外移住）業務」において、日本人の海外移住の歴史、日系社会に関する資料、情報を収集し、整理・保管を行った。資料の収集にあたっては、関連図書、標本等各種資

料を寄贈、購入、取得済等、入札実施要項に定められた方法で適切な収集を行った。資料受入実績数は表4のとおりである。

表4：資料受入実績数

評価項目	平成19年度 (2007年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)	合計
寄贈	256	536	421	957
購入(※1)	167	273	139	412
取得	355	193	61	254
移管	0	184	0	184
受入合計	778	1,190	621	1,811

※1：資料購入にあたっては、機構の方針に基づき委託先事業者が資料購入計画の作成、仕入先候補からの見積書徴取を行った。

(5) 情報検索システム登録数

「学芸業務」において、収蔵資料・物品について、情報検索システム(※1)状の登録情報と照合し、不足している情報の追加、確認、修正を行った。件数(表5参照)は平成24年度、平成25年度ともに、年間目標数である400件を達成しており、適切に業務を実施した。

表5：情報検索システム登録数

評価項目	平成19年度 (2007年)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)	合計
登録情報の照合・ 確認・修正件数	0	440	412	852

※1：情報検索システムは、海外移住資料館ホームページからアクセスし、インターネット上で収蔵資料の検索をキーワード入力にて可能とするもの。

(6) 国内外の移住資料館等との連携状況、情報提供状況

各機関との連携を図りながら、デジタル・ミュージアム・スペース既存サイトの運用に加え、新規サイトの製作、公開を行った。

2012年に開催された海外移住資料館10周年シンポジウムにおいては、今後、海外日系博物館等との連携を強化していく方向性が示されたことを受け、全米日系人博物館との連携のもとで企画展示の相互開催の実施や、海外日系博物館との連携強化に向けた調査の実施など、関連施設を中心にネットワークの構築に取り組んだ。

また、みなとみらい21地区には移住に関連する展示を行っている博物館(神奈川県立博物館、帆船日本丸横浜みなと博物館、横浜開港記念資料館)があり、ボランティア養成や資料保存方法の情報共有など常に連携を図ってきた。加えて、みなとみらい地区で開催されるイベントに

積極的に参画し誘客を図った。

平成 24 年度および平成 25 年度の国内外の移住資料館との連携状況・情報提供状況は別添 5 のとおりである。

(7) トラブル・クレーム対応状況

常設展示室内および収蔵庫内に設置されている展示資料、展示什器、設備等の点検・保全を定期的に行い、簡単な補修等（資料の固定等）については、委託先事業者が即時に対応した。委託先事業者により、対処が困難と判断されたトラブル発生時には、機構に連絡したうえで、機構が契約する修繕業者と連絡調整を行った。資料館設備・備品等、情報展示システムの不具合発生時の対応、地震発生時における常設展示室の状況確認・施設点検、不審者対応といった緊急時対応が必要となった場合には、機構に連絡したうえで、入館者の安全を第一の目的とし、適切に対応した。

クレーム対応についても、その内容に応じて原則、即時、かつ適切に対応した。委託先事業者による対応が困難と判断されたクレームについては、機構に遅滞なく連絡が行われた。

なお、毎日の状況について、日誌を作成し機構に報告が行われ、改善が必要な事項について情報共有が可能な体制が構築されている。

(8) 海外移住資料館関連資料等の販売実績

これまで販売してきた資料館グッズに加え、平成 23 年度よりオリジナル缶バッジの販売を開始し、平成 24 年度、平成 25 年度ともに順調な売れ行きを見せた。また、絵はがきも新たなデザインを追加するなど、工夫を加えた結果、一定の売上を確保した。

販売実績は表 6 のとおりである。

表 6：資料館グッズ販売数量

商品	平成 19 年度 (2007 年)	平成 24 年度 (2012 年度)	平成 25 年度 (2013 年度)	合計
絵ハガキ(17 種) ※1	-	342	701	1,043
ストラップ(オリジナル・十二支) ※2	-	457	154	611
移住船模型 ※3	-	4	6	10
オリジナル缶バッジ ※4	-	589	723	1,312

※1：絵ハガキは平成 21 年 10 月より 50 円/枚で販売開始。移住に関連する写真等。17 種のうち 7 種は平成 25 年 7 月より追加。

※2：ストラップは、平成 22 年 7 月より 300 円/本で販売開始。エクアドル在住日系人が制作したもので、収益はエクアドル国マンタ市託児所の児童の食事代として寄付。

※3：移住船模型は、平成 22 年 10 月より 2,000～2,500 円/個で販売開始。「あるぜんちな丸」、「ぶらじる丸」の 2 種類。

※4：オリジナル缶バッジは平成 23 年 7 月より 100 円/個で販売開始。15 か国の国旗缶バッジ。

3. 評価

上記のとおり、平成 24 年度及び 25 年度における確保されるべき質の達成状況に関し、来館者数、教育プログラム参加人数、ホームページアクセス件数のすべての評価指標について、両年度ともに目標を上回る結果となった。

これは、国内外との関連施設や移民送出県・市との連携を図り、魅力ある特別展示を開催したことや、神奈川県や横浜市、みなとみらい 21 等との連携を推進し、イベント等により誘客を図ったこと、教育プログラムの充実化、広報強化などが要因として挙げられる。特に教育プログラムでは神奈川県下の学校を中心に連携または働きかけが強化され、社会科見学コースに指定する学校が増えたことは評価できる。

また、管理・運営業務の実施状況についても、従来から実施してきた内容・水準を守り、かつ、各種コンプライアンス（著作権、個人情報処理、安全対策等）を遵守し、適切に業務が行われたことを、報告書及び海外移住資料館での観察、調査等のモニタリングによって確認した。

受託事業者である海外日系人協会は組織発足以来、中南米や米国、カナダなどの日系人社会はもとより移民送出県を中心に各県との強いネットワークを有しており、魅力ある特別展示やイベントにつながった。また裁量権を認めたことにより、学芸（研究）員やボランティアの起用、ネットワークを駆使した広報を展開し、質及び量の確保が可能となった。以上の結果は、受託事業者の創意工夫が十分に働いた結果であると評価できる。

当施設は平成 25 年 4 月には歴史資料等保有施設に認定された。海外移住資料館が国内における稀有で本格的な移住に関する博物館であり、契約終了となる残り 1 年間も受託事業者の組織力を活かした創意工夫により、第一級資料の適切な保存と、一層の誘客を図ることが期待できる。

Ⅲ 実施経費の状況及び評価（平成 24 年度及び 25 年度）

1. 対象公共サービスの実施に要した経費

【平成 24 年度】 79,268,836 円（税込）（※1）

【平成 25 年度】 73,021,318 円（税込）

平成 24 年度、平成 25 年度ともに評価指標を達成したため、実施要項 1-6（5）③④に基づき、インセンティブ（平成 24 年度：1,981,720 円、平成 25 年度：2,190,639 円）を支払っている。

2. 従来の実施に要した経費との比較

表 7：経費の比較

経費	平成 19 年度 (2007 年度)	平成 24 年度 (2012 年度)	平成 25 年度 (2013 年度)
契約金額(年額・税込)	81,832,000 円 ※2	79,268,836 円 ※1	73,021,318 円
インセンティブ		1,981,720 円	2,190,639 円
実施経費	81,832,000 円	81,250,556 円	75,211,950 円 ※3
平成 19 年度との比較		581,444 円 (99%)	6,620,050 円 (91%)

※1：平成 24 年度の契約開始は 6 月であり、10 か月間の契約であったため、契約金額（66,057,364 円）を 10 で除した数値の 12 倍を契約金額として記載している。

※2：実際の契約金額から、今回対象外とした業務に必要な経費は除外して記載している。

※3：精算時に 7 円の差額が生じたため、実施経費は契約金額にインセンティブを加えた金額と一致しない。

3. 評価

平成 24 年度は年間 581,444 円（削減率 1%）、平成 25 年度は年間 6,620,050 円（削減率 9%）（※インセンティブを除外すれば、年間 8,810,689 円：削減率 10%）の経費削減となり、平成 19 年度に比べ低いコストで確保すべき質を維持したことから、効率的に業務が実施されたものと評価できる。

IV 民間事業者からの改善提案による改善実施事項

1. 教育プログラムについて、神奈川県下の学校を中心に連携または働きかけが強化され、社会科見学コースに指定する学校が増えたことにより、教育プログラム参加人数が大幅に増加した。また、小中学生向けの展示案内パンフレットを作成したことにより、小中学生を中心に資料館展示内容の理解促進が図られた。
2. 委託事業者の自主的努力として、資料館独自のイベント開催のほか JICA 横浜や地域で行われるイベントへの積極的な参画などにより、海外移住についての知識普及および資料館の広報に大きく寄与したことが、みなとみらい地区を中心とする来館者数の増加や近隣施設等との連携強化につながった。
3. これまで販売してきた資料館グッズに加え、オリジナル缶バッジの販売や絵はがきについては新たなデザインを追加するなど、工夫を加えた結果、一定の売上を確保した。
4. 2012 年に開催された海外移住資料館 10 周年シンポジウムにおいては、今後、海外日系博物館等との連携を強化していく方向性が示されたことを受け、全米日系人博物館との連携のもとで企画展示の相互開催の提案・実施や、海外日系博物館との連携強化に向けた調査の提案・実施など、関連施設を中心にネットワークの構築に取り組み、関係が強化されている。

V 評価のまとめ

1. 来館者数、教育プログラム参加人数、ホームページアクセス件数のすべての評価指標について、平成 24 年度及び 25 年度の両年度ともに目標を上回る結果となった。
2. また、管理・運營業務の実施状況についても、従来から実施してきた内容・水準を守り、かつ、各種コンプライアンス（著作権、個人情報処理、安全対策等）を遵守し、適切に業務が行われたことを、報告書及び海外移住資料館での観察、調査等のモニタリングによって確認した。以上より、本件業務の確保されるべき公共サービスの質は確保されたものと評価できる。
3. 平成 24 年度は年間 581,444 円（削減率 1%）、平成 25 年度は年間 6,620,050 円（削減率 9%）（※インセンティブを除外すれば、年間 8,810,689 円：削減率 10%）の経費削減となり、平成 19 年度に比べ低いコストで確保すべき質を維持したことから、経費削減が達成できたものと評価できる。
4. 中南米や米国、カナダなどの日系人社会はもとより移民送出県を中心とした各県との強いネットワークの活用や神奈川県や横浜市、みなとみらい 21 等との連携を推進し、魅力ある特別展示やイベントの提案につながったことから、民間事業者からの提案が業務に適切に反映されたものと評価できる。
5. 学芸（研究）員やボランティアの起用、ネットワークを駆使した広報を展開するなど、受託事業者の創意工夫が業務に十分に働いたものと考えられる。

VI 今後の課題

2回の民間競争入札の実施により、サービスの質の確保がなされていることから、次期事業についても引き続き民間競争入札を実施することとしたい。

歴史資料等保有施設として認定された海外移住資料館に、より多くの方に来場していただき、移民史や日系人社会支援の理解増進を図るには、外部事業者により大きな裁量権を与え、創意工夫を発揮しやすくすることが有効であるものと考えられる。

例えば、広報業務につき、外部事業者の知見やネットワークを活用し、これまで以上の誘客を図るために、包括的な委託を行える戦略を策定できることが挙げられる。また、博物館では10年を目安に展示の見直しが図られるが、当資料館の常設展示は開設後12年が経過し、見直しが求められるところであり、専門性を有する外部事業者の知見を借りることが求められる。更に、より魅力ある展示構成とするために、資料館に設置されている閲覧用IT機器関連業務(閲覧用コンテンツ制作及び機器保守等の業務)も委託の中に含めることを検討したい。

具体的には、民間事業者の創意工夫を期待するために、業務ごとの固定人数にこだわらない仕様、共同体での受注を可能とするなど資格要件の緩和、別契約になっている業務との包括契約によりスケールメリットを活かせる内容等実施要項を見直すことにより多くの民間事業者の関心を促したい。

以上

平成 24 年度 海外移住資料館 常設展示利用者アンケート

サンプル数：335 件(未回答項目あり)

【常設展示について】

Q1: 展示の内容について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
第 1 四半期	49	55	14	0	2
第 2 四半期	52	38	15	1	2
第 3 四半期	23	14	4	0	1
第 4 四半期	35	18	3	0	1
合計	159	125	36	1	6

満足度(%)
86.9

Q2: 展示ガイドによる展示解説について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
第 1 四半期	49	42	19	2	2
第 2 四半期	37	28	16	6	3
第 3 四半期	17	9	7	2	1
第 4 四半期	17	23	7	1	1
合計	120	102	49	11	7

満足度(%)
76.8

Q3: 受付の対応について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
第 1 四半期	35	34	29	0	4
第 2 四半期	47	27	21	3	5
第 3 四半期	19	11	8	0	1
第 4 四半期	23	15	14	0	1
合計	124	87	72	3	11

満足度(%)
71.0

総合評価

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
第 1 四半期	133	131	62	2	8
第 2 四半期	136	93	52	10	10
第 3 四半期	59	34	19	2	3
第 4 四半期	75	56	24	1	3
合計	403	314	157	15	24

満足度(%)
78.5

※1 満足度:「とても良い」「良い」という選択肢を回答した割合

サンプル数： 241 件(未回答項目あり)

【常設展示について】

Q1: 展示の内容について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
第 1 四半期	41	19	8	0	1
第 2 四半期	40	31	5	0	0
第 3 四半期	32	17	4	3	0
第 4 四半期	18	9	1	1	0
合計	131	76	18	4	1

満足度(%)
90.0

Q2: 展示ガイドによる展示解説について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
第 1 四半期	35	15	14	1	3
第 2 四半期	26	27	12	0	0
第 3 四半期	26	15	2	1	1
第 4 四半期	12	9	2	0	0
合計	99	66	30	2	4

満足度(%)
82.1

Q3: 受付の対応について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
第 1 四半期	45	13	8	0	0
第 2 四半期	36	18	14	0	0
第 3 四半期	30	15	4	0	0
第 4 四半期	18	10	1	0	0
合計	129	56	27	0	0

満足度(%)
87.3

総合評価

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
第 1 四半期	121	47	30	1	4
第 2 四半期	102	76	31	0	0
第 3 四半期	88	47	10	4	1
第 4 四半期	48	28	4	1	0
合計	359	198	75	6	5

満足度(%)
86.6

※1 満足度:「とても良い」「良い」という選択肢を回答した割合

平成 24 年度および平成 25 年度 海外移住資料館 照会対応アンケート

平成 24 年度 (サンプル数: 15 件)

1. 対応者の対応について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない	
第 1 四半期	4	0	0	0	0	
第 2 四半期	6	2	0	0	0	
第 3 四半期	1	0	0	0	0	
第 4 四半期	2	0	0	0	0	満足度(%)
合計	13	2	0	0	0	100.0

2. 問い合わせに対する回答内容について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない	
第 1 四半期	3	1	0	0	0	
第 2 四半期	6	2	0	0	0	
第 3 四半期	1	0	0	0	0	
第 4 四半期	1	1	0	0	0	満足度(%)
合計	11	4	0	0	0	100.0

平成 25 年度 (サンプル数: 16 件)

1. 対応者の対応について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない	
第 1 四半期	3	0	0	0	0	
第 2 四半期	10	0	0	0	0	
第 3 四半期	3	0	0	0	0	
第 4 四半期	0	0	0	0	0	満足度(%)
合計	16	0	0	0	0	100.0

2. 問い合わせに対する回答内容について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない	
第 1 四半期	3	0	0	0	0	
第 2 四半期	10	0	0	0	0	
第 3 四半期	2	1	0	0	0	
第 4 四半期	0	0	0	0	0	満足度(%)
合計	15	1	0	0	0	100.0

※1 満足度:「とても良い」「良い」という選択肢を回答した割合

平成 24 年度 海外移住資料館だより読者アンケート

4～9 月

サンプル数: 235 件(未回答項目あり)

【海外移住資料館だよりについて】

Q1.掲載内容で一番面白かったものは

	巻頭インタビュー	資料探検隊	トピックス
第 1 四半期	17	37	19
第 2 四半期	16	38	10
合計	33	75	29

Q2.記事の内容について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない	
第 1 四半期	23	27	8	0	0	
第 2 四半期	24	20	8	2	1	満足度(%)
合計	47	47	16	2	1	83.2

※1 満足度:「とても良い」「良い」という選択肢を回答した割合

10～3 月

サンプル数: 100 件(未回答項目あり)

【海外移住資料館だよりについて】

Q.記事の内容について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない	
第 1 四半期	12	10	5	1	0	
第 2 四半期	12	12	11	0	1	満足度(%)
合計	24	22	16	1	1	71.9

※1 満足度:「とても良い」「良い」という選択肢を回答した割合

平成 25 年度 海外移住資料館だより読者アンケート

サンプル数： 241 件(未回答項目あり)

【海外移住資料館だよりについて】

Q.記事の内容について

	とても良い	良い	普通	あまり良くない	良くない	
第 1 四半期	17	11	7	0	4	
第 2 四半期	22	20	5	0	0	
第 3 四半期	20	14	5	0	0	
第 4 四半期	7	9	2	0	0	満足度(%)
合計	66	54	19	0	4	83.9

※1 満足度:「とても良い」「良い」という選択肢を回答した割合

平成 24 年度 海外移住資料館 展示等実績

項目	事業名称・開催期間	事業実績等
特別展示①	<p>「ハワイに生きる日系人 -受け継がれる日本の心-」</p> <p>7/27(金)～9/2(日)</p>	<p>官約移民当時の砂糖耕地での労働や当時の暮らしぶりが偲ばれる写真や資料で、ハワイの日本人移民の歴史を概観するほか、第一回官役移民の労働約定書・パスポートの実物、最強の軍団として活躍した二世部隊である第 442 連隊のユニフォーム、徽章など、通常は公開していない貴重な資料も展示した。</p> <p>・付帯イベント:ドキュメンタリー映画「100 年の鼓動～ハワイに渡った福島太鼓～」を上映(期間中毎日)</p> <p>【開催期間中入館者数:4,735 名】</p>
特別展示②	<p>「JICA 横浜 海外移住資料館の 10 年」</p> <p>10/4(木)～11/11(日)</p>	<p>本年、開館 10 周年を迎え、開館から今日までの活動をたどり、企画展、特別展等で紹介した展示の内容を振り返った。この 10 年で 26 回の企画展および特別展を行ったが、その中で当資料館に現在も資料が保管されている 12 の展示について、その一部を展示した。</p> <p>【開催期間中入館者数:4,589 名】</p>
特別展示③	<p>「アンドウ・ゼンパチ -移民知識人の人生とその業績</p> <p>“Ando Zenpati</p> <p>- A vida e a obra de um imigrante intelectual”」</p> <p>12/12(水)～1/6(日)</p>	<p>本展示は、2010 年 11 月 26 日から 2011 年 1 月 28 日までブラジル日本移民史料館で開催されたもので、日本国内では、広島市、神戸市に続き、今回当資料館にて展示開催する運びとなった。</p> <p>著述業を生業として活躍したアンドウ・ゼンパチについて、正しく評価し、ブラジル日系社会において氏の残した業績を本展示で伝えた。</p> <p>【開催期間中入館者数:1,535 名】</p>

<p>特別展示④</p>	<p>「ペルーの日系人」 1/18(金)～2/17(日)</p>	<p>1899年、サトウキビ耕地や製糖工場での就労を目的として、最初の日本人がペルーへと渡った。その後、約3万6千人が渡り、現在では日系人口約9万人といわれている。南米で最初に日本人移民が渡った国、ペルーにおける日系人の歴史や生活を当資料館所蔵のほか、広島市市民局が所蔵している資料を展示し、紹介した。</p> <p>また本展示では、ペルー日本人契約移民データベース(1899年から1923年にかけて契約移民としてペルーに渡った日本人移民18,727人についてのデータが収録された検索システム)のデモンストレーションを実施した。</p> <p>【開催期間中入館者数:3,466名】</p>
<p>特別展示⑤</p>	<p>「100年後のカリフォルニアへ -祖父たちの足跡をたどって- 松井みさき写真展 3/1(金)～5/6(日)</p>	<p>ニューヨークで活動する写真家・松井みさきさんは、日本で亡くなった祖父・曾祖父が第二次世界大戦前、アメリカ移民としてカリフォルニアで葡萄園を経営していたことを知る。祖父の残した古いアルバムにあった写真の風景を求めて、彼女の家族の歴史をたどる旅が始まった。日米の移住資料館、カリフォルニアのナショナル・アーカイヴなどから入手した乗船名簿等の資料とともに、彼女の「旅」の写真を展示した。</p> <p>・付帯イベント:松井みさき ギャラリートーク(3/2-3) 参加者数:132名</p> <p>【開催期間中入館者数:2,751名】(3月のみ)</p>
<p>イベント等①</p>	<p>「子どもの日はカルタで遊ぼう」(児童福祉週間) 5/5(土)</p>	<p>子ども向けイベントとして、移民カルタを用いたイベントを実施。参加者をグループ分けし、展示案内ボランティアが読み札を読み、カルタ大会を実施した。</p> <p>【参加者数:136名】</p>
<p>イベント等②</p>	<p>「ミュージアム・クイズラリーよこはま2012」 7/20(金)～8/31(金)</p>	<p>当資料館を含む横浜・みなとみらい地区周辺の15の博物館が開催する「ミュージアム・クイズラリーよこはま2012」。</p> <p>・付帯イベント:ミュージアムツアー 8/28(火) みなとみらい・馬車道コースのツアー(県立歴史博物館、税関資料展示室、当資料館を回るツアー)を3館協力で実施した。 参加者数:6名</p> <p>【参加者数:202名】</p>

<p>イベント等③</p>	<p>「新港サマーパスポート」</p> <p>8/3(金)～8/31(金)</p>	<p>当資料館を含めた新港地区にある7つの施設で、実施期間中施設ごとに用意したサービスにクーポン券を利用できるパスポートを製作・実施した。当資料館クーポン利用時にはオリジナル KOKO 缶バッジ、あるいは国旗缶バッジをプレゼントした。また参加施設3か所のスタンプを押印してハガキで応募するとプレゼントがもらえる企画には「ぶら志る丸」のプラモデル3台を提供した。</p> <p>【資料館クーポン利用数:270枚】</p>
<p>イベント等④</p>	<p>「かながわ子ども・子育て支援月間 紙芝居・カルタで遊ぼう！」</p> <p>8/5(日)・8/26(日)</p>	<p>神奈川県保健福祉局が実施する「かながわ子ども・子育て支援月間」の一環として実施。紙芝居、移民カルタを利用して、日本人移住者の歴史や経験を楽しく学ぶ場を提供した。参加児童生徒に対し、資料館オリジナル国旗バッジをプレゼントした。</p> <p>【参加者数:39名】</p>
<p>イベント等⑤</p>	<p>「子どもアドベンチャー2012」</p> <p>①カルタで遊んでタイムスリップ！ ②ワールド・フード・ツアー～日本と世界の食のつながり～</p> <p>8/22(水)～8/23(木)</p>	<p>横浜市教育委員会の実施する「子どもアドベンチャー2012」の一環として開催。「カルタで遊んでタイムスリップ！」は移民カルタを利用して、日本人移住者の歴史や経験を楽しく学ぶ場を提供した。本イベントにおいても、参加児童生徒に対し、資料館オリジナル国旗バッジをプレゼントした。</p> <p>「ワールド・フード・ツアー！」は、1階ギャラリー、2階 JICA プラザ、当資料館の3か所を巡り、JICA インターン生の案内でクイズを解いていくツアーを行った。「日本と世界の食のつながりをいろいろな角度から考えることが出来た」と、参加者に好評をいただいた。</p> <p>【参加者数:①101名、②99名】</p>
<p>イベント等⑥</p>	<p>「第5回宝島ハロウィン」</p> <p>10/28(日)</p>	<p>みなとみらい・新港地区で開催された第5回宝島ハロウィンラリーに当資料館もラリーポイントとして参加。仮装をして来館した子どもを対象にお菓子(ブラジル・トメアスー地区のアグロフォレストリー農法で栽培されたカカオを原料にしたチョコレート)を配布した。「アグロフォレストリー」に関する情報(森を作る農業の環境負荷の低さや、ブラジル農業への日系農家の貢献など)を伝え、その魅力を紹介した。またワールドポーターズ内で実施された仮装コンテストにも審査員として参加し、「JICA 横浜 海外移住資料館賞」を一組に贈呈した。</p> <p>【参加者数:988名】</p>

<p>イベント等⑦</p>	<p>「第2回中南米横浜書道展」 12/1(土)～12/24(月)</p>	<p>中南米諸国で書道を学ぶ人々を対象に、日本で書の学習成果を発表する機会を提供し、日本語学習の意欲向上につなげることを目的とした書道展開催(主催:中南米書道展開催事務局)にあたり、出品作品の取りまとめ、資材提供、展示準備・撤収、ホームページ作成等の支援業務を行った。</p>
<p>イベント等⑧</p>	<p>上映会「時折—グラミーニヤの家族」 1/19(土)</p>	<p>『グラミーニヤの家族』は、1927年から1934年にかけて日本からブラジルに移住し、「グラミーニヤ」と呼ばれる土地に根を張った5組の日系家族の日常を見つめ、彼らの軌跡を辿るドキュメンタリー映画。2013年劇場公開に先駆けて上映会を行った。 【受講者数:53名】</p>
<p>公開講座①</p>	<p>シンポジウム「デカセギの子どもたち 自分たちを語る」 5/19(土)</p>	<p>1908年以降、多くの日本人がブラジルに渡り、そのブラジルでは今や150万人の日本人とその子孫である日系人が暮らしている。一方で、1990年代以降、多くの日系人が「デカセギ」として来日している。2008年に起こったリーマンショックの影響で、派遣労働者として働いていた多くの日系ブラジル人は、仕事を失い、帰国を余儀なくされている現状にある。 ブラジルと日本の間を行き来し、社会情勢に翻弄されながらも、たくましく生きていく日系ブラジル人の若者たちが、何を感じ、何を考えているのか—今回の公開講座は、多くの移民を送り出してきた日本という国で起きている現実を見つめつつ、未来について考える契機を提供できればと考え、開催した。 【受講者数:115名】</p>
<p>公開講座②</p>	<p>映像上映会「Go for Broke!」—ハワイ日系二世の記憶— 9/8(土)</p>	<p>ハワイ・マウイ島で、日系二世の“体験“を若い世代に伝えていこうと、二世自らが立ち上がり実施している「Kansha Preschool」を支援するNPO法人 NAC-J代表の松元裕之監督が、60時間に及ぶ元二世兵士のインタビューをまとめたドキュメンタリー映画「Go for Broke!」—ハワイ日系二世の記憶—の試写会を行った。終了後に松元監督による講演会も併せて開催した。 【受講者数:188名】</p>

<p>公開講座③</p>	<p>講演 「世界のパスポート/パスポートの世界」</p> <p>12/9(日)</p>	<p>本講座は、財団法人千里文化財団「国立民族学博物館友の会」との共催で実施。世界各地のさまざまな種類のパスポートの事例をとおして、それぞれの保証内容や発行機関についての解説、また、発行する側と所持し、使用する側の意識のずれなど、人びとの帰属意識をめぐる思いについてなどを講演いただいた。</p> <p>【受講者数:73名】</p>
<p>公開講座④</p>	<p>講演 「経済不況化のブラジル人とコミュニティー豊田市のブラジル人はどのような生活を送っているのかー」</p> <p>2/9(土)</p>	<p>2007年から2012年までの豊田市保見団地とその周辺で行ったフィールドワークから、リーマンショック以降豊田市のブラジル人はどのような生活を送っているのか、どのような問題を抱えているのかについてお話を伺った。</p> <p>【受講者数:48名】</p>

平成 25 年度 海外移住資料館 展示等実績

項目	事業名称・開催期間	事業実績等
特別展示①	<p>「海を渡った日本人町」展 —アメリカ大陸の日本人町、日本町、 日本人街、小東京—</p> <p>7/19(金)～9/23(月)</p>	<p>日本人が渡ったアメリカ大陸には、日本人町、日本町、日本人街、小東京などと呼ばれた日本人集住地が多数存在した。そこには様々な日本人経営店舗が存在し、まるで日本にいるかのような生活が営まれていた。本展示では、日本人町の全容や店舗をとおして見た日系人の生活を紹介した。</p> <p>・付帯イベント:学芸担当による日系トークあれこれ 第1回「日本人町」について(5/25) 参加者数:15名</p> <p>【開催期間中入館者数:7,612名】</p>
特別展示②	<p>「日系人と混血 -Hapa とメスチッソ-」</p> <p>11/15(金)～12/28(土)</p>	<p>日系人の混血も進む現在、「日本人の子孫」としての意識やアイデンティティはどのように変化してきているのか。北米における Hapa(ハパ)、南米におけるメスチッソに注目し、カリフォルニア大学キップ・フルベック教授の作品である “part asian・100% hapa” の中から日系人の写真 20 枚を展示した。他にも日系人の混血に関する様々なデータやインタビュー映像などを併せて紹介した。</p> <p>・付帯イベント:学芸担当による日系トークあれこれ第2回「日系人と混血-Hapa とメスチッソ-」(11/23) 参加者数:22名</p> <p>【開催期間中入館者数:3,698名】</p>
特別展示③	<p>「魁(さきがけ)～日本からハワイへ渡った人々 —浜野龍峰 書のある空間から—」</p> <p>1/18(土)～2/16(日)</p>	<p>書家浜野龍峰さんによる、縦 3m、横 2mの布 10 枚に埋め尽くされたハワイ移民の名字と、明治政府の許可を得ずに海を渡った、いわゆる「元年者」112 人の名字が刻まれた篆刻作品による書のある空間。これらは、2010 年にハワイ官約移民 125 年を記念して制作、ハワイで公開された。あわせて、当資料館が収蔵する、初期のハワイ移民の写真や、パスポートなどの資料を展示し、日本の海外移住の魁(さきがけ)となったハワイ移民について紹介した。</p> <p>・付帯イベント:浜野先生によるデモンストレーション・ワークショップ(1/18-19) ワークショップ参加者数:29名</p> <p>【開催期間中入館者数:1,941名】</p>

<p>特別展示④</p>	<p>「雄飛-沖縄移民の歴史と世界のウチナーンチュ」</p> <p>3/1(土)~5/11(日)</p>	<p>琉球王国として独自の文化を育んできた沖縄は、日本有数の移民県でもある。なぜ、沖縄は移民が多いのか。どこの国へ行ったのか。そして、新天地でどのように自らの文化を守り伝えてきたのか。</p> <p>沖縄の海外移住の歴史を美しいビジュアルでわかりやすく解説するとともに、沖縄から海外へ「雄飛」し、故郷との絆を大切にしながら、さらに独自のネットワークを広げ、世界を舞台に活躍するウチナーンチュ(沖縄人)の現在の姿を紹介した。</p> <p>・付帯イベント: 特別展示「雄飛-沖縄移民の歴史と世界のウチナーンチュ」オープニングセレモニー(3/1) 参加者数: 28名</p> <p>【開催期間中入館者数: 2,760名】(3月のみ)</p>
<p>イベント等①</p>	<p>「子どもの日はカルタで遊ぼう」(児童福祉週間)</p> <p>5/5(土)</p>	<p>5月5日~5月11日の「児童福祉週間」に伴い、5月5日の「こどもの日」に「移民カルタ」で遊べるスペースを設置し、参加者には缶バッジをプレゼントした。当日午後はマジシャンにも来てもらい、移住した国の国旗にまつわるマジックも披露し来館者に好評を得た。</p> <p>【参加者数: 1,830名】</p>
<p>イベント等②</p>	<p>「6月18日は海外移住の日」</p> <p>6/15(土)・16(日)・18(火)</p>	<p>●カルタで遊んでタイムスリップ!</p> <p>日本-ブラジル移民カルタを実施し、参加者には缶バッジをプレゼントした。</p> <p>●上映会開催(ガイダンスホール)</p> <p>(1)『誰も知らない日系アメリカ人の歴史』11:00~ (2)『南米の新天地』14:00~</p> <p>●コーヒー試飲会</p> <p>日系ブラジル人が作ったコーヒーの試飲会を開催。</p> <p>●来館者全員へ下記のをプレゼントした。</p> <p>・15日、16日 クリアファイル ・18日 クリアファイルとアグロフォレストリーチョコレート</p>
<p>イベント等③</p>	<p>「ペルー日本人契約移民データベース(日本語版)開通式」</p> <p>6/18(火)</p>	<p>在日ペルー大使館の公使参事官を招いてペルー日本人契約移民データベース(日本語版)の開通式を行った。公使に開通のボタンを押してもらい、データベースについて柳田学術委員より説明した。</p>

<p>イベント等④</p>	<p>「ミュージアムクイズラリー2013」</p> <p>7/13(土)～9/1(日)</p>	<p>海外移住資料館を含む横浜・みなとみらい地区周辺の15の博物館が開催する「ミュージアムクイズラリーよこはま 2013」。毎年夏休み期間中に開催されており、各館と連携して開催した。</p> <p>・付帯イベント:ミュージアムツアー 7/25(木) 日本新聞博物館～JICA 横浜 海外移住資料館コースのツアーを2館協力で実施した。参加者数:1名</p> <p>【参加者数:362名】</p>
<p>イベント等⑤</p>	<p>「かながわ子ども・子育て支援月間カルタで遊んでタイムスリップ！」</p> <p>8/3(土)・17(土)</p>	<p>神奈川県保健福祉局が実施する「かながわ子ども・子育て支援月間」の一環として実施。移民カルタを利用して、日本人移住者の歴史や経験を楽しく学ぶ場を提供した。</p> <p>【参加者数:40名】</p>
<p>イベント等⑥</p>	<p>「子どもアドベンチャー2013」</p> <p>8/20(火)～21(水)</p>	<p>横浜市教育委員会の実施する「子どもアドベンチャー2013」の一環として開催。移民カルタを利用して、日本人移住者の歴史や経験を楽しく学ぶ場を提供し、参加児童生徒に対し、資料館オリジナル国旗バッジをプレゼントした。</p> <p>【参加者数:51名】</p>
<p>イベント等⑦</p>	<p>「Brasil Culture Festival2013 横浜」</p> <p>8/16(金)～18(日)</p>	<p>JICA 横浜が後援となっている本イベントへブース出展を行った。ブースではパネル10枚を展示及び資料の配布等を行った。</p>
<p>イベント等⑧</p>	<p>「第6回 宝島ハロウィン」</p> <p>10/27(日)</p>	<p>みなとみらい・新港地区で開催された第6回宝島ハロウィンラリーに参加。常設展示室内にラリーポイントを設置し、仮装をして来館した子どもを対象にお菓子を配布。またワールドポーターズ前広場で実施された仮装コンテストにも審査員として参加し、「JICA 横浜 海外移住資料館賞」を一組に贈呈した。</p> <p>【参加者数:835名】</p>
<p>イベント等⑨</p>	<p>「第3回中南米横浜書道展」</p> <p>12/3(火)～27(金)</p>	<p>中南米諸国において書道を学ぶ人々を対象に、日本で書の学習成果を発表する機会を提供し、日本語学習の意欲向上につなげることを目的とした書道展を開催した。</p>


<p>イベント等⑩</p>	<p>「みなとみらい 21 新港地区 いちごMAP」 1/31(金)～2/28(金)</p>	<p>新港地区賑わい作り委員会主催で「いちごMAP」を制作、配布した。これは横浜赤レンガ倉庫が1月31日(金)～2月2日(日)に実施した「Yokohama Strawberry Festival2014」に絡め、同地区の賑わい創出のため実施。当館ではこの期間来館されたお子様に南米のいちごクッキーを配布した。</p>
<p>公開講座①</p>	<p>「“Breaking the Silence”沈黙を破って」 8/11(日)</p>	<p>英語朗読劇「Breaking the Silence 沈黙を破って」は、19世紀末からハワイ、米本土へ移民した日本人が歩んできた当初の50年から、戦中、戦後を描いている作品。朗読劇に参加されている2名の講師に講演頂き、「とても分かりやすく印象的な講演だった」と好評を得た。 【参加者数:30名】</p>
<p>公開講座②</p>	<p>「多文化共生社会の変容 —移民第二世代の活躍と日本人側の理解」 3/16(日)</p>	<p>1990年の出入国管理及び難民認定法の改定後に急激に増加した外国人は、日本国内において生活のサポートが必要なマイノリティとして語られてきた。しかし、2008年のリーマンショックと2011年の東日本大震災は、彼らを取り巻く状況を大きく変化させた。 本講座では、日本における「多文化共生社会」の変容について、「定住化の進展」「コミュニティの担い手としての外国人」、そして「移民第二世代の活躍」をキーワードに、お話を伺った。 【参加者数:37名】</p>

平成 24 年度および平成 25 年度 海外移住資料館 国内外の移住資料館との連携状況・情報提供状況

1. 新規製作・公開サイト

【平成 25 年度】

項目	内容	トップページ図
<p>【連携サイト】 ペルー日系人協会 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイト</p>	<p>本プロジェクトは、ペルー日系人協会と JICA 横浜 海外移住資料館による共同プロジェクトである。</p> <p>＜日本人契約移民のデータベース・検索システムの構築＞</p> <p>2013 年 4 月 3 日「日秘友好の日」にスペイン語版を、6 月 18 日「海外移住の日」に日本語版を WEB 公開した。収録されているデータは、慶應義塾大学文学部柳田研究室が外務省外交史料館架蔵「移民取扱人ヲ經由セル海外渡航者名簿」をもとに、一部「旅券下付表」で補い作成した「ペルー契約移民データベース（18,727 件）」のデータを利用している。</p> <p>URL： http://jomm.jp/dnp_peru/entrance.html</p>	
<p>【資料館サイト】 中南米移住地記録写真集 1964</p>	<p>海外移住資料館所蔵の『中南米移住地記録写真集 1964』は、JICA の前身である海外移住事業団が南米 5 カ国（ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ、ドミニカ共和国）の日本人移住地の様子等を記録した写真集である。2013 年 6 月 17 日に公開した。</p> <p>URL： http://jomm.jp/1964photo/index.html</p>	

<p>【資料館サイト】 特別展示「ハワイに生きる日系人—受け継がれる日本の心—」</p>	<p>このサイトは、2012年7月27日（金）から9月2日（日）までの資料館で開催された特別展「ハワイに生きる日系人」の展示内容を記録するものである。展示品の様子などを紹介する内容で、2013年9月11日に公開した。</p> <p>URL: http://jomm.jp/hawaii/index.html</p>	
--	--	---

2. 既存サイトの運用

【平成24年度～平成25年度】

項目	内容
<p>【連携サイト】 広島市デジタル移民博物館</p>	<p>デジタル移民博物館の多言語化に向けて、進めている。平成25年度10月より、島田法子先生（日本女子大学名誉教授）にハワイ部分の監修をお願いし、英語ページの公開に向けて準備を進めている。</p>

3. 企画製作中のサイト

【平成24年度～平成25年度】

項目	内容
<p>【連携サイト】 ブラジル・サントスココーヒー博物館サイト</p>	<p>サンプルサイト構築後、継続対応中。データ待ちの状況である。</p>
<p>【連携サイト】 カナダ・日系文化会館サイト</p>	<p>サンプルサイト構築後、継続対応中。データ待ちの状況である。</p>
<p>【連携サイト】 ブラジル日本移民史料館サイト</p>	<p>サンプルサイト構築後、継続対応中。データ待ちの状況である。</p>

4. 特別展示の実施

【平成25年度】

項目	内容
<p>【特別展示】 日系人と混血 -Hapa とメスチッソ-</p>	<p>全米日系人博物館を皮切りにアメリカ各地で行われた特別展示“Part Asian, 100% hapa”が非常に興味深い内容だったので、この内容を中心に紹介する展示を構想した。同展示の写真データから、著者の許可を得て日系 hapa のデータを借用し、当館展示での目玉とした。さらに著者を含めた専門家のインタビューや、南米ブラジルのデータ、日系人の混血化に関する統計等を含めて展示を構成した。日系人のアイデンティティに関する考察を写真や統計で表現した。</p>